

県文連ふくおか

題字／貫 正義

令和5年5月

72号

創立30周年記念特集号



福岡県文化団体連合会

表紙の光景

組織の品格

侍ジャパンのWBC優勝ほど、日本人の心を鼓舞したものはない。長い低迷、閉塞の後に久々に日本人に誇りと自信を取り戻させてくれたのではないか。

侍たちは、勤勉、謙虚、品格など日本人古来の美徳の全てを世界に余すところなく発揮した。とりわけ大谷選手はその一挙手一投足が注目される中、まさに自然体で風格を見せてくれた。

熱狂したファンもスタンドを清潔に保つなど今回もまた、各国メディアの称賛を浴びた。WBCを通して日本人の株は上がった。

入学式、入社式シーズンに先駆けて、県文連は創立30周年の祝賀式典を行った。式典は品格の場である。わが式典でも日本人の、そして組織の品格がにじんでいた。

もくじ

ポストコロナの文化を模索

- 福岡、九州の魅力を世界にアピールしよう…… 3
創立30周年記念式典 貫会長あいさつ
- 県文連創立30周年記念式典…… 4
青年期を終え、これからが飛躍の時
- 創立30周年記念表彰…… 5
表彰者・感謝状 贈呈者
- 創立30周年記念シンポジウム…… 6
「県文連誕生、発展、そして未来へ」
- 創立30周年記念レセプション…… 7
開催テーマ
「咲かせよう輝く未来へ！文化とともに」
- 令和5年度県民文化大学講座…… 8
県民ふるさと文化講座
令和4年度講座修了式
- 俳句…… 10
- 短歌…… 11
- 第30回ふくおか県民文化祭2022…… 12
開催テーマ
「咲かせよう輝く未来へ！文化とともに」
テーマ作者表彰、障がい児者美術展入賞者表彰
県地域文化功労者表彰
- 芸術体験講座…… 13
現地探訪「秋月街道〜薩摩街道の旅」
- 地域文化芸術フォーラム&リーダー研修会…… 14
「文化芸術をつなぐ 伝える」をテーマ
- 福岡県文化賞 福岡市文化賞…… 15
- 第22回全国中学校総合文化祭福岡大会…… 16
開催テーマ「九州の玄関口より創造の風を今、吹かせるとき〜未来へ繋ぐ私たちの文化〜」
- 福岡アートビエンナーレ2022…… 17
- 第61回北九州芸術祭開会式…… 18
ふるさと文化誌第11号「ぶぜん天狗の里物語」発刊
- 吉塚だより…… 19

福岡県文化団体連合会 創立30周年記念式典



福岡県文化団体連合会は創立30周年を迎えることができました。文化芸術をこよなく愛し、地域の発展にも尽くした先人や皆様のたゆまぬ活動が結実したことに心から敬意を表します。

本日は、かねて多大なご支援、ご指導をいただいています福岡県や県議会、市町村など行政関連の皆様、賛助会員の企業・団体の皆様にも多数、ご臨席頂きました。こうした祝賀式典をできるのも郷土の文化芸術を愛する皆様の熱いご支援の賜物と重ねてお礼申し上げます。

振り返ってみますと1992年11月の、県文連の誕生は全国では34番目、九州では7番目、と遅咲きでしたが、福岡の文化力は2004年、

「とびうめ国文祭」で遺憾なく発揮され、期間中115事業、観客345万人と、国文祭史上、空前のイベントとなりました。

20周年祭典の成功

2011年2月、創立20周年記念の「ふくおか芸術文化の祭典」も素晴らしい成功でした。その直後の3・11東日本大震災で日本は大混乱に陥

催して福岡の文化の維持、発展に努め、県民文化大学やふるさと文化講座で埋もれた文化や歴史を掘り起こすなど、その存在をアピールしてきました。

逆境にも新天地

そして、逆境の時こそ文化の力が新天地を切り拓く、と、奮闘した象徴が2020東京五輪・パラリンピック協

福岡、九州の魅力を世界にアピールしよう

福岡県文化団体連合会会長 賀 正義

りましたが、私はその翌年6月に前会長から引き継いで今日まで県文連運営に携わってきました。

この10年間、日本経済は長い停滞から脱しきれず、県文連も市町村合併や少子高齢化

による会員減や後継者難などの課題に加え、ここ3年間はコロナ禍に悩まされました。

こうした中でも県文連は、毎年、の県民文化祭を着実に開

賛文化プログラム「福岡和文文化プログラム」世界和太鼓フェスティバル」です。各地の文化プログラムが中止になる中、成功裏に開催できたのは県文連の宝、誇りです。

コロナ禍から立ち上がって日本は今、インバウンドの推進に取り組んでいます。地域の伝統文化はそのための貴重な観光資源で、九州でも官民一体でその活用を図っていま

す。

例えば、2019年開催のラグビーワールドカップの折に、欧米客を九州に招こうと、お祭り41団体を熊本に集結させ「祭り熊本」を開催しました。そのトップセールスのフランス訪問団に私も参加しましたが、日本文化への関心は想像以上で、アニメ、和太鼓、囲碁将棋など若者に浸透しています。

伝統文化の発展を

現在、福岡空港も整備が進んでおり、インバウンド推進は福岡発展の大きな課題です。7月には世界水泳選手権2023福岡大会、10月には国際自転車競技ツールド九州2023が開催されます。

県文連としても、30周年を機に、世界にアピールする九州の伝統文化発展のため、九州へのインバウンド促進のため、これまで以上の活動をしたいものです。県文連へ積極的なご参加、温かいご支援をお願いいたします。

県文連創立30周年式典

福岡県文化団体連合会は令和4年度に創立30周年を迎え、今年1月31日、西鉄グランドホテル2階プレジールに、会員や来賓ら約200名が出席して記念式典を行った。

式典は、松木孝子さんの司会で進行。宇田川宣人理事長の挨拶で開幕。冒頭、貫正義会長は「人になぞら

えれば、30年は青年期を終えたところ。これからが県文連、飛躍の時」と力強く挨拶した（3ページに要約）。

続いて来賓を代表して生嶋亮介副知事、渡辺美穂県議会県民生活商工

委員会委員長長の2氏が祝辞を述べた。

ここで、壇上に並ぶ生嶋、渡辺両氏をはじめ、今林久県文化議員連盟会長、北里晋九州文化協会常務理事、徳永吉之県人づくり・県民生活部長、田中直喜県教育庁教育振興部長の来賓6氏が紹介された。

また、長年にわたって県文連の活動を支えてきた賛助会員30企業・団体と個人3人（次ページ感謝状贈呈一覧を参照）に感謝状と博多人形の大黒天が贈られた。出席された19団体の代表として重松典子アクロス福

岡館長が30周年の祝意を込めた挨拶をされた。

これから表彰式に入った。文化貢献者（全11人、出席7人）、文化功労者（全36人、出席23人）、特別文化貢献者（全6人、出席5人）、特別文化功労者（全30人、出席26人）と進み、それぞれ代表者が登壇し、

貫会長から賞状、記念品を渡された。続いて文化貢献特別大賞が、長年、常任理事、広報編集委員、県民文化大学実行委員長を務めた県文連調査役の古賀透さんに贈られた。貫会長

から賞状を受けて、古賀さんは「会報や30周年記念誌の編集、県民文化大学講座、いずれも楽しく仕事させていただいた。感謝あるのみ」と挨拶した。

文化功労特別大賞は、東京五輪協賛の「福岡和文化ブロード・世界和太鼓フェスティバル」の開催に尽力した県和太鼓友輪会会長の小田幸久さんに贈られたが、急病のため式典は欠席となった。

これで表彰式は終了。創立30周年記念シンポジウムに移った。

賛助会員感謝状



公益財団法人アクロス福岡館長
重松 典子さん

文化貢献者代表



特別個人会員
山崎 北山さん

文化功労者代表



朝倉市文化団体連合会会長
泉 徳登美さん

特別文化貢献者代表



県民文化大学講師、福岡女子大学名誉教授
足田 啓佑さん

福岡県文化団体連合会創立30周年記念表彰

<敬称略、五十音順>

【文化功労特別大賞】 小田 幸久

【文化貢献特別大賞】 古賀 透

【特別文化貢献者表彰】

石川 純一	井原 絹江	林田 スマ
疋田 啓佑	森山 満	山村より子

【特別文化功労者表彰】

井生 定巳	石橋 良知	井上 馨	大隈 康子
太田 可愛	河津 政雄	小田部黄太	小林 正則
世利 岩夫	高尾 康子	高瀬 昭登	田島 安江
田中 伸幸	長 秀俊	徳永 文晤	薙野 敏光
西高辻信良	能間 瀧次	花柳三枝君	原田 紀晃
坂東 錦寿	平川 柳子	別府 正紀	眞角 毅
松尾 逸央	森田 喜富	八尋 汕子	山下 政一
吉原ヒロ子	米村 旭翔		

【文化貢献者表彰】

浅野佐代穂	石松 裕和	井口 恵聖	岡野 弘幸
木村厚太郎	洪田 武春	島村 大道	下田 浩之
玉城 勝則	宮本 直美	山崎 北山	

【文化功労者表彰】

東 努	阿部 哲朗	荒鬼 文子	有吉 孝久
石津サナエ	泉 徳登美	上田 勝治	植高 秀司
植村 隆雄	内海 猛年	円入 恵	落合 拓美
賀来 求	梶原 幸子	紙野美寿江	木下 修二
倉田 主税	田中 彰	田中 綾子	田中 茂雄
鶴田美佳子	手島 静恵	二宮 留美	野口 心山
野寄 和秀	原口 旭愛	東 真須美	堀井 敏男
松田 和子	松田 幸	本木 芳夫	山内 剛
山口 晋一	山田由美子	行武 豊子	吉田 義徳

【感謝状】

- ・公益財団法人アクロス福岡
- ・飯塚信用金庫
- ・英進館ホールディングス株式会社
- ・有限会社 海鳥社
- ・公益財団法人九州交響楽団
- ・久留米運送株式会社
- ・西部ガスホールディングス株式会社
- ・人生史サークル 黄檗の会
- ・株式会社 西日本シティ銀行
- ・西日本プラント工業株式会社
- ・株式会社 日本旅行九州法人営業部
- ・株式会社ピアノターミナル・ナカムラ
- ・株式会社福岡銀行
- ・ふくおかアジア文化塾
- ・株式会社 山口油屋福太郎
- ・特定非営利法人文化ボランティアとびうめの会
- ・王寺 陽一郎
- ・アジア美術家連盟日本委員会
- ・一番食品株式会社
- ・株式会社 エルテックス・ヨシダ
- ・九州電力株式会社
- ・株式会社 九電工
- ・公益財団法人末永文化振興財団
- ・株式会社 如水庵
- ・蝶屋株式会社
- ・西日本鉄道株式会社
- ・公益財団法人日本習字教育財団
- ・福岡事務所
- ・株式会社 ひよこ
- ・福岡県教育庁 部課長会
- ・福岡県信用保証協会
- ・株式会社福岡こどもクラブ
- ・岡 征二
- ・唐川 茂樹

特別文化功労者代表



太宰府市文化協会名誉会長
高瀬 昭登さん

文化貢献特別大賞



県文連調査役
古賀 透さん

文化功労特別大賞



県和太鼓友輪会会長
小田 幸久さん

記念シンポジウム 「県文連誕生、発展、そして未来へ」

是澤さんは、数少ない県文連創立メンバーの一人。結成前後を振り返り、「初代事務局長に決まっていたのか、県立美術館副館長の二村能史さんから、筑豊の文化団体をまとめてくれ、と言われ、四苦八苦、何とかまとまった」。「県文連発足12年目に開催したとびうめ国文祭は、飛び抜けて素晴らしかった」と語った。



是澤 清一 さん

筑豊のまとめに四苦八苦

河村さんは創立20周年を迎えたころの事務局長。「団塊の世代が60代にかかった時期で、この世代が元気にコミットしたおかげで文化活動が活性化、盛り上がった」と指摘。
「県文連も自主事業に取り組み始め、20周年の芸術文化の祭典は完全に自前でやり遂げた」と振り返った。



河村 哲夫 さん

自前で芸術文化の祭典

川筋太鼓を経てジャパンマーベラスは2009年の設立。国内外で多数公演。西口さんは「福岡には太鼓など邦楽のプレイヤーがプロでやっていける環境はまだない。若手がプロとしてやっていけるノウハウを探りたい」と語り、「県文連にも若手がチャンスをつかむ場を作って欲しい。先人の意思を引き継ぎ頑張る」と意欲を見せた。



西口 勝 さん

若手にチャンスの場を

記念シンポジウムは、県文連顧問の是澤清一さん、同、河村哲夫さん、和楽団ジャパンマーベラス団長の西口勝さん（特別個人会員）の3氏が登壇。副理事長の林田スマさん（大野城まどかびあ館長）をコーディネーターに「県文連誕生、発展、そして未来へ」を語り合った。

記念レセプション

創立30周年記念のレセプションは、鳳凰の間に会場を移して午後4時から行われた。石川純一副会長の開会あいさつを受けて、貫正義会長が登壇。「福岡は、アジア文化の受け皿としてわが国文化の発展に貢献してきた」として、「この力で、九州はひとつ」を念頭に、九州文化祭を企画しよう」とチャレンジを呼び掛けた。続いて、井上博隆県議会副議長が祝辞を述べた。

ここで、日本舞踊協会県支部副支部長で吾妻流県代表の吾妻濤穂さんが祝舞「清元・四季三葉草」を披露して、拍手に包まれた。

宇田川宣理理事長の発声で乾杯の後、いよいよ歓談、会食の宴会に。宴もたけなわに和楽団ジャパンマーベラスが登場。今や世界を魅了するパフォーマンスを披露して、30周年祝賀ムードを盛り上げた。

終盤を迎えて県吟剣詩舞道総連盟副理事長の葵秀鳳さんが格調高く

「普の黒田武士」を演舞。豊島栄陽常任顧問、笠井栄俊会長、小塩晃楼副理事長の同連盟トリオによる博多祝いめでたにつなぎ、笠井さんが博多手一本で締めた。
林田スマ副理事長の閉会のことばでレセプションは終了、創立30周年を祝う一連の行事は幕を閉じた。



乾杯の音頭をとる宇田川理事長



ジャパンマーベラス西口さん(左)



吾妻濤穂さん



県吟剣詩舞道総連盟
左から豊島栄陽さん、笠井栄俊さん、小塩晃楼さん



葵秀鳳さん

令和5年度 県民文化大学講座

江戸・明治を生きた女性文化人たち ～筑前五女を中心に

講師：谷川佳枝子

大学講座後半は、江戸時代に主として福岡で活躍した貝原東軒、亀井少琴、二川玉篠、野村望東尼、高場乱の五人の女性たち（筑前五女）を中心に、これらの女性たちの生涯と生きた時代について学びます。

～呂坤と『呻吟語』～

講師：疋田啓佑

大学講座前半は、明末の儒学者・官僚、呂坤（1536～1612）の人生と『呻吟語』及び『実政録』など他の著作の紹介、解釈を行います。呂坤は寧陵（河南省）の人。字は叔簡。号は新吾。明に仕えますが、結局自ら官職を退いて、田野に儒学を講じました。



川野栄美子 講師



駄田井正 講師



谷川佳枝子 講師



疋田啓佑 講師

令和5年度講座

県民文化大学・ふるさと文化講座

疋田氏『呻吟語』、谷川氏『筑前五女』
「川と水辺から辿る文化史」駄田井氏ら8氏



栗焼憲児 講師



牛嶋英俊 講師



竹川克幸 講師



水原道範 講師



河村哲夫 講師



森弘子 講師

令和5年度の県民文化大学と県民ふるさと文化講座は4月20日、アクロス福岡2階セミナー室を会場にスタートする。休講の8月を除く毎月第3木曜日、県民文化大学は午前10時半から、ふるさと講座は午後1時半から開講する。

県民文化大学は4月～10月の前期は、中国古典シリーズで、疋田啓佑福岡女子大名誉教授が明末の儒学者で官

僚だった呂坤を取り上げ「呂坤と『呻吟語』」を講義する。

11月～来年3月の後期は、野村望東尼研究家で知られる谷川佳枝子さんが「江戸・明治を生きた女性文化人たち～筑前五女を中心に」と題して講義する。

また県民ふるさと文化講座は、前年度の「街道と旅」に続いて「川と水辺から辿るふるさと文化史」が統一テーマ。筑後川、遠賀川、御笠川、山国川流域をたどり、専門家8氏が論じる。

受講料は両講座とも1回1千円で年間通し1万円。申し込みは県文連事務局へ。

電話 092(643) 2875
ファクス 092(643) 2876

令和5年度 県民ふるさと文化講座

～川と水辺から辿るふるさとの文化史～

“人の暮らしは水と共にある” いにしえから私たちのいとなみ<生活と文化>は水辺にて育まれ発展してきました。福岡県には筑後川、遠賀川をはじめ多くの川が流れ、それぞれの流域には興味深い歴史や文化、伝承が残されています。令和5年度のふるさと文化講座は、昨年度の「街道と旅」に続き、「川と水辺」から郷土の文化史を紐解いていきます。

川と水辺から辿るふるさとの文化史 アクロス福岡2階セミナー室 13:00～14:30			呂坤と『呻吟語』 アクロス福岡2階セミナー室 10:30～12:00		
日程	テーマ	講師	テーマ（講師：足田啓佑）		
令和5年 4月20日（木）	成熟社会の到来と 筑後川流域展望	久留米大学名誉教授 駄田井 正	第1回 巻1 原序「性命」「存心」 ・明代思想概説		
5月18日（木）	黒田藩と遠賀川のかかわり	福岡県文化財保護指導委員 牛嶋 英俊	第2回 巻1「倫理」「談道」 ・呻吟語について 成立と内容		
6月15日（木）	久留米藩と城下町を支えた 筑後川の水運	久留米市文化財保護課 水原 道範	第3回 巻2「修身」 ・呂坤について「明史」の呂坤伝		
7月20日（木）	御笠川・宝満川の流域文化	福岡県文化財保護審議会委員 森 弘子	第4回 巻2「問学」 ・呂坤について「墓誌銘」より		
8月	休 講		休 講		
9月21日（木）	筑後川流域の民話	大川市議会議員 川野 栄美子	第5回 巻3「応務」 ・呂坤の政治論「実政録」より		
10月19日（木）	山国川流域の歴史と文化	求菩提資料館館長 栗焼 憲児	第6回 巻3「応務」「養生」 ・呂坤の人生論「去偽齋集」より		
			江戸・明治を生きた女性文化人たち ～筑前五女を中心に		
日程	テーマ	講師	テーマ（講師：谷川佳枝子）		
11月16日（木）	遠賀川流域の旅と 観光の文化史	日本経済大学教授 竹川 克幸	かいばらとうけん かめいしょうきん 貝原東軒と亀井少琴		
12月21日（木）	水の回廊 朝倉・秋月： 土木遺産「女男石」と水神信仰	日本経済大学教授 竹川 克幸	はらさいひん 原采蘋		
令和6年 1月18日（木）	遠賀川流域の古代史と伝承	福岡県文化団体連合会 顧問 河村 哲夫	ふたかわぎょくじょう 二川玉篠		
2月15日（木）	筑後川流域の古代史と伝承①	福岡県文化団体連合会 顧問 河村 哲夫	のむらぼうとうに 野村望東尼		
3月21日（木）	筑後川流域の古代史と伝承②	福岡県文化団体連合会 顧問 河村 哲夫	たかばおさむ 高場乱		



島崎 美希さん



荒木 英子さん



皆勤賞副賞

県民文化大学講座の皆勤受講者は12人で、代表して荒木英子さんが、またふるさと文化講座の皆勤者も12人で、代表して島崎美希さんがそれぞれ、古賀透実行委員長から表彰状と副賞、記念品を受けました。副賞は賛助会員の（株）山口油屋福太郎提供のめんべい、記念品は県文連発行のふるさと文化誌でした。

皆勤受賞者の中には、県民文化大学で9年連続の松本勤さん、ふるさと文化講座で10年連続の西山道子さんのように、長年にわたる受講者も見えます。

県民文化大学と「街道と旅 文化のクロスロード」が統一テーマの県民ふるさと文化講座が3月16日、最終日を迎え、それぞれ修了式を行いました。

修了式

県民文化講座 荒木さんら12人
ふるさと講座 島崎さんら12人

令和4年度の「貞観政要を読む」

俳句

「青嶺」主宰 岸原清行

「青嶺」は平成十三年、「地平」継承。師系は野見山朱鳥、児玉南草。岸原は現在、県俳句協会顧問、(社)俳人協会評議員を務める。

太宰府

憶良・旅人まみえし丘の風かをる
樗散る観世音寺の鐘に散る
風薫る令和の石碑とこしなへ

「玄海」主宰 大石靖子

「玄海」は平成六年、小島隆保が博多で創刊。師系は高濱虚子、高濱年尾、稲畑汀子、稲畑廣太郎。花鳥諷詠の理念を現代の視点で問い続ける。平成二十八年三代目主宰となる。

花の時

ひとひらの花にいのちの風が吹く
ふりそそぐ花に思惑のあるやうに
いつもさう心あふれて花の時

「光円」主宰 服部たか子

「光円」は「円」終刊を継ぎ平成二十年七月、田代朝子の下に創刊。二十七年主宰交代。師系は岡部六弥太。自然と人との交響を詠む。

バリアフリー劇

広がりしバリアフリー劇春隣
不思議なる豊かさ残す冬の劇
A Iも太古も知りて春の月

「さわらび」主宰 介弘紀子

昭和二十二年、川上朴史が大牟田で創刊。平成三十年第四代主宰となる。師系は、稲畑汀子、稲畑廣太郎。客観写生、花鳥諷詠を理念とする。(公・社)日本伝統俳句協会理事。

梅

虚子生れし梅に汀子は逝き給ふ
盆梅に省略といふ句の心
整はぬ梅を空整へて待つ

「自鳴鐘」主宰 寺井谷子

「自鳴鐘」は、昭和十二年横山白虹により創刊、二十三年に復刊。平成十九年横山房子逝去により主宰継承。現代俳句協会副会長を務める。

望郷津山

花影に消ゆは三鬼か望郷津山
美作津山川の流れに添う花影
三鬼忌の城址に白く桜充つ

「天籟通信」代表 福本弘明

昭和四十年、穴井太が北九州市で創刊。高く遊ぶことを旨とし、自由で個性豊かな集団を目指す月刊同人誌。

近道

近道に急な坂あり四月来る
路線バスの窓すこし開く春隣
ありがとうの数に足りないカーネーション

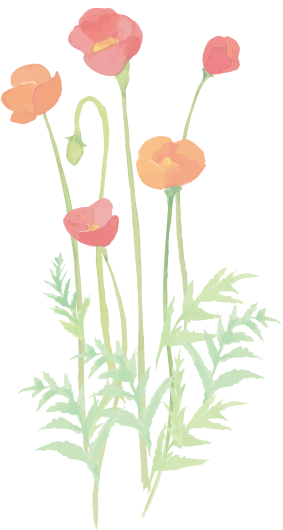
「冬野」主宰 持永真理子

「冬野」は、大正十二年創刊。令和三年二月、五代目の主宰継承。師系・高濱虚子、高濱年尾、稲畑汀子、稲畑廣太郎。花鳥諷詠を信条に面白みのある句を目指したい。

初蛙

春泥に車輪をとられベーカー
椿落つ水城の哀史語ること
宝満山を目ざすつもりの初蛙

【俳誌名五十音順】



短歌

老いて知る色の名ひとつ美しく哀しきひびきウクライナブルー
奪還と聞きて地図に探す地は淡きみどりの平和な色なり

篠原 信子
「新アララギ」

メッシュ柵取り付け耕作せし畑もわずかな年で放棄地となる
春採りの杉の一本挿し木して正月越せば七十円の値

栗原 正嗣
「歩行」

銀色の扉をあけて朝の来ぬ白亜紀前の森の香つれて
紅白歌合戦の裏でレバノンの青年が腎臓を売った番組つづく

松本千恵乃
「未来」

教会の描かれし箱に詰められて長崎産の新じゃが届く
自己主張なす術なるか若者のバイクは唸りをあげて過ぎゆく

山本 道子
「となみ」

饒舌な菜の花の下ひそやかに咲ける堇の紫裾濃
睡蓮の池にさし入る一条の光のさきにうごめく魚影

古賀 耀子
「やまなみ」

「咲かせよう輝く未来へ！文化とともに」

第30回 ふくおか県民文化祭2022

統一テーマ作者の中山さんと障がい児者展入賞者らを表彰



大曲副知事と中山さん

受賞者と審査員によるギャラリートークが開催された。コロナ禍のなか開催中止を余儀なくされた事業

「咲かせよう輝く未来へ！文化とともに」の作者表彰式も行われ、一般公募の254点から選ばれた作者、古賀市の中山咲菜さんが服部誠太郎県知事（県民文化祭県実行委員会会長）から賞状などを受けた。

また、「ふくおか県障がい児者美術展」の入賞者と、令和4年度県地域文化功労者1人と2団体の表彰も行われた。

「障がい児者美術展」は今年度が6回目、同会場内に受賞作品を展示し、

「咲かせよう輝く未来へ！文化とともに」を統一テーマに掲げた第30回ふくおか県民文化祭2022は、令和4年10月から12月まで、新型コロナウイルス感染症防止対策に十分配慮しながら分野別団体の11事業、地域別団体の9事業など、37事業のイベントが開催された。

記念式典は12月17日、田川文化センターで行われた。

統一テーマ「咲かせよう輝く未来へ！文化とともに」

文化とともに」の作者表彰式も行われ、

一般公募の254点から選ばれた作者、

古賀市の中山咲菜さんが服部誠太郎県

知事（県民文化祭県実行委員会会長）

から賞状などを受けた。

また、「ふくおか県障がい児者美術展」

の入賞者と、令和4年度県地域文化功

労者1人と2団体の表彰も行われた。

「障がい児者美術展」は今年度が6回

目で、同会場内に受賞作品を展示し、

受賞者と審査

員によるギャ

ラリートーク

が開催され

た。

コロナ禍の

なか開催中

止を余儀なく

された事業

もあつた

が、県文連

からは、分

野別団体が

11事業、地

域別団体が

9事業を展

開。小中学

校などで行

う芸術体験講座も18回目を迎え、着実

な成果を上げている。

このほかにも特色ある県民文化創造

事業もあり、県下28市町で主催事業37、

協賛事業28を実施した。

参加者は県文連関係だけで3万1千

人、事業全体では、9万2千人と推定

される。

ふくおか県障がい児者美術展入賞者

▽県知事賞（一般絵画）藤井佑樹（同書

道）錦戸甲人（同写真）小川騎士（小

中絵画）セキセイインコ好き（同書道

坂元心音（同写真）田中陽葉▽県議会

議長賞（一般絵画）星先こずえ（同書道）

泉妙子（同写真）永松雅美（小中絵画）

正木愛莉（同書道）武内仁希（同写真）

麻生菜那△△教育委員会賞（小中絵画）

末吉優花、竹井寛人（同書道）権田羽

奏△敬称略



吟剣詩舞フェスティバル



第23回京築ふるさと文化祭



北九州ブロック芸能のつどい

福岡県地域文化功労者

▽声楽家／吉田由布子（久留米市）▽女性合唱団飯塚マミーコール（飯塚市）▽福岡県陶芸作家協会（うきは市）△敬称略

第31回県民文化祭2023

コロナ禍前に戻る

分野別12、地域別9事業

第31回ふくおか県民文化祭2023

の開催事業が出そろった。分野別事業12、地域別事業9にのぼり、前年より分野別が1事業増えて、ようやくコロナ禍前に戻った格好だ。

9月5日開幕の第78回県美術展覧会（県立美術館など）を皮切りに、12月16、17日の第18回福岡文化連盟祭り芸術舞台2023（福岡市立南市民センター）まで、3か月間、県内各地で文化イベントを繰り広げる。

芸術体験講座

芸術体験講座の魅力！

演劇、音楽、ダンス、邦楽・伝統芸能、総合芸術の各分野から派遣されたプロの芸術団体が学校で児童・生徒たちに真の芸術を伝えていく「芸術体験講座」。学校側の希望に応じて団体・個人を派遣し、「鑑賞」だけでなく、必ず「体験」を取り入れている。

子どもたちは「これからも講師の先生が教えてくれた『相手のことを考える』や『失敗をすることはいい』ということを忘れずに覚えておいて、生活に生かしていきたいです。」「芸術体験講座はあつという間でした。でも色々な楽器のことが分かり、素晴らしい音楽を聞けてとても楽しかったです」。

先生方からも、「コロナ禍で様々な行事が中止となる中、子どもたちにこ

のような機会を与えていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです」などの意見・感想が寄せられている。

開設から18年、
累計473校で実施

「芸術体験講座」は、平成17年の開設から18年目を迎え、令和4年度も団体、学校の協力を得て、新型コロナウイルス感染症対策を採ったうえで、県内の小中学校、特別支援学校の20校に合計17の芸術団体を派遣し無事実施することができた。

子どもたちは、普段触れることが少ない真の芸術を間近で鑑賞するとともに自ら体験し、驚きや達成感を味わっていた。

これまでに473校で実施、約4万3千人の児童・生徒が参加している。



廣吉里歌子・広沢薫
(声楽＋ピアノ)



山崎笠山・宮本直美
(邦楽体験)



劇団さんぼ
(表現活動)

現地探訪3年ぶりに復活

「秋月街道～薩摩街道の旅」



秋月 眼鏡橋にて

コロナ禍で中止になっていた県民ふるさと文化講座の現地探訪が3年ぶりに復活しました。2月28日、「秋月街道～薩摩街道の旅」に18人が参加、おなじみの竹川克幸日本経済大学教授の軽妙なガイドで、早春の城下町秋月、松崎宿を巡る学びの旅を満喫できました。

県民ふるさと文化講座は令和4年度、「街道と旅文化のクロスロードを行く」がテーマで、3月16日の終講を目前の「卒業旅行」。竹川教授は12月に「幕末志士 国事周旋・九州遊学の旅」を講義していました。

地域文化芸術フォーラム&リーダー研修会

「文化芸術をつなぐ 伝える」

育成事業立上げ 日舞・藤間さん
一般向け体験教室 林新宮町会長

「文化芸術をつなぐ 伝える」をテーマに、地域文化芸術フォーラム & リーダー研修会は昨年10月13日、吉塚合同庁舎3階研修室で開き、加盟団体会員や行政関係者ら70人が参加した。

第1部では、パネリストに日本舞踊の宗家藤間流九州代表、藤間三富さんと、新宮町文化協会会長の林陽子さんの二人が登場。江崎雅彦県文連専務理事兼事務局長の進行で、議論を展開した。

藤間さんは少子高齢化が進み後継者が足りないうえ、コロナ禍もあって発表の場が限られる、などの状況を打破する試みとして、「伝承者育成事業やまと流星群」を立ち上げ、9月に初舞台にこぎつけたことを披露した。

林さんは、高齢化、コロナ禍などで活動が低調になり会員減も進んでいる現状を踏まえて、文化協会のあり方を見直す第一歩としてアンケートを行ったこと、市民対象に体験教室を開催して会員増に取り組んでいることを報告した。

第2部は、鳥丸聡長崎県立大教授をファシリテーターに、4〜6人のグループに分かれて、自分たちの直面する問題にどう対処するかを巡って、活発に議論しあった。



パネリスト
藤間流九州代表
藤間三富さん



パネリスト
新宮町文化協会会長
林陽子さん



鳥丸教授(中央右)も参加したグループ討議の様様

新入会員

志村宗忝さん、
目経大が新入会

3月の常任理事会で、特別個人会員に新たに茶道家の志村宗恭さんが、賛助会員に日本経済大学が加入することが報告、承認された。これで県文連の特別個人会員は50人、賛助会員は31団体・3人になった。

福岡県文化賞

創造部門 アニメの湯浅政明監督

社会部門 福岡文化財団

奨励部門 人形師 中村弘峰さん

第30回福岡県文化賞の創造、社会奨励の3部門に2氏、1団体が選ばれ、3月18日、アクロス福岡4階国際会議場で贈呈式が行われた。

創造部門受賞はアニメーション監督の湯浅政明さん(57)。県出身で九州産業大卒。長編アニメーション監督として「夜明け告げるルーのうた」でアヌシー国際アニメーション映画祭長編部門の最高賞で宮崎駿、高畑勲両監

湯浅政明さん



久保田勇夫さん
(福岡文化財団理事長)



中村弘峰さん



督に次ぐ日本人3人目の快挙。文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞も3度受賞している。

社会部門は公益財団法人福岡文化財団が受賞した。福岡相互銀行(現西日本シティ銀行)の創立以来、活動歴37年。毎月開催のNCBプロムナードコンサートと年末開催のNCB音楽祭で音楽文化の普及に貢献。伝統芸能の継承、発展を目標に「日本の神様と舞い踊ろう」事業を展開している。

奨励部門は人形師の中村弘峰さん(36)。老舗博多人形「中村人形」の4代目。東京芸術大卒業後、3代目の父信喬さんに師事。2012年、日本伝統工芸展初入選で新人賞。その後、西部伝統工芸展連続入選、16年、金沢・世界工芸コンペティションで優秀賞など多数受賞。アスリートシリーズの作品は、日本人形のあり方をアップデートする斬新さに評価が高い。

福岡市文化賞

ジャパンマーベラスに文化賞

日本国際文化協会九州センターに

市民文化活動功労賞

令和4年度の福岡市文化賞、市民文化活動功労賞の贈呈式が3月25日、アジア美術館あじびホールで行われ、和楽団ジャパンマーベラスが文化賞、(二社)日本国際文化協会九州センター(松尾新吾会長)が市民

文化活動功労賞を受賞した。

和楽団ジャパンマーベラスは、福岡市を拠点に活動し、国際的にも評価の高い和太鼓を中心としたプロのエンターテインメントチーム。団長は、県文連特別個人会員の西口勝さん。2017年には県文化賞を受賞している。

西口勝さん



松尾新吾さん



日本国際文化協会九州センターは、長年にわたって福岡城・鴻臚館まつりの日本舞踊を演出、出演してきたほか、留学生に日舞を指導する活動を行ってきた。運営・指導の舞踊家西川五郎さんは県文連特別個人会員。

文化賞はほかに、能楽家坂口信男さん、照明デザイナー松下美紀さん、市民文化活動功労賞はほかに、福岡ろう劇団、BOOKUOKA実行委員会が受賞した。

全国中文祭福岡大会、大成功

九州の玄関口・北九州勢が総力 昨年8月、北九州芸術劇場、市美術館分館で

県文連最若年の加盟団体・福岡県中学校文化連盟が、昨年8月、北九州市で「第22回全国中学校総合文化祭福岡大会」を行い、大成功でした。

全国中学校総合文化祭は、平成13年に東京都で第1回が開催され、全国の中学生に、文化芸術活動の場を提供することで、豊かな情操を育み、未来へ繋がる創造力を高めることを目的に全国で開催されています。

福岡大会のテーマは、力強く「九州の玄関口より創造の風を今、吹かせるとき」未来へ繋ぐ私たちの文化」と掲げて、8月18、19日の2日間、北九州芸術劇場、北九州市立美術館分館の2会場に、全国各地区代表の中学生たちが集合。ステージでは合唱、吹奏楽、演劇、ダンス、郷土芸能など、展示会場には書写、美術・

家庭科、理科研究など、いずれも全国的にもレベルの高いパフォーマンスや作品を披露しました。
大会の生徒実行委員会委員長は、市立霧丘中3年、村上心優さんが務

め、大会テーマは思永中3年、白鳥玲子さんの、最優秀ポスターは曾根中2年、高山結衣子さんの作品でした。またオープニング劇「天神様の細道」、エンディング合唱「ふるさと」

も地元北九州勢が総力挙げて、大会を成功に導きました。
県中学校文化連盟は2003年4月に結成され、会員は約10万人を数えます。



劇「天神様の細道」



小倉祇園太鼓のパフォーマンス



合唱「ふるさと」

福岡アートビエンナーレ2022開催

コラボに注力、多様なアートの形示す

福岡文化連盟は昨年11月から12月にかけて、福岡市美術館、隣接する大濠公園日本庭園、市内外のギャラリーなどで「福岡アートビエンナーレ2022」を開催した。4年ぶりの開催に当たり企画内容を一新、名称も変えて再スタートした。

企画に当たり特に留意したのは「コラボレーションに力を入れる」「多様なアートの形を示す」の2点。福岡文化連盟は福岡都市圏で活躍する文化人・アーティストがジャンルの違いを超え、個人の立場で参加する団体。その特色を生かすにはやはりコラボが一番だろうと考えた。さらに今日のアートの多様な広がりを実感してもらうため、非美術分野の会員はもちろん、会員以外にも広く参加を呼びかけた。結果的にこれまでとは比較にならない大がかりで多彩な内容の総合芸術祭となった。



白秋展会場で詩の朗読を行う九州詩人祭福岡大会の参加者

まずメイン会場の福岡市美術館では会員の美術家による本展と、北原白秋へオマージュ展、福岡市のアートユニットanno labにメディア・アートの新作を制作してもらう特別展「いろ・しき」の3つを同時開催した。白秋展は、書や絵画、工芸を中心に文芸や華道の作家が「白秋」「柳川」「水」などをテーマにオマージュ作品を競作した。地元の柳川市



柳川市民文化会館ではロビーコンサートを行い、会員の声楽家に白秋の童謡を歌ってもらった

も特別協賛してくれ、福岡市で展示終了後は柳川市民文化会館にも巡回した。anno labは昨年度の文化庁メディア芸術祭アート部門で大賞を受賞した実力派。文連が手薄な現代アート分野を補完する意味で参加してもらった。

今回初の試みとして設けたサテライト会場の大濠公園日本庭園（茶会館）では華道家が各所に花をいけ、茶席と香席を随時開催した。茶器や花器は工芸部門の会員が提供、香席では詩人や俳人が香りに合わせた自

作の朗読朗詠を行うという、文連ならではの趣向を凝らし、紅葉の季節と重なったこともあり、外国人観光客を含め大賑わいだった。

このほか、天神地区のギャラリーを中心に、再開発で変わる天神をテーマにした文芸とアートのコラボ「天神展」、障がいのあるアール・ブリュットの作家たちと会員の美術家が競作する「ユニバーサル・アート展」、若手のみに参加限定した「I T T A R I K I T A R I」（行ったり来たり）展、シンポジウム、ワークショップなど盛りだくさんの企画を展開した。やや手を広げすぎた気もするが、県民文化祭参加にふさわしい、福岡のアートの祭典になったと自負している。（福岡文化連盟事務局長・北里晋）



大濠公園日本庭園で行った茶会

北九州芸術祭

脱コロナで「文化は新時代へ」
若者重視の新ジャンルも



開会あいさつを
行う田中会長

北九州市
市制60周年
記念の第61
回北九州芸
術祭が4月

1日から始まり、5月末まで2か月にわたって市内各会場で多彩なイベントを繰り広げている。

統一テーマは、2年連続で「文化は負けない」「今年も負けない！」とコロナ禍との戦いを掲げたが、今年は「文化は新時代へ」。

開会式が4月1日、ウエルとばた戸畑市民会館多目的ホールに200人が出席して開かれ、田中正直北九州文化連盟会長は「北九州市誕生の1963年に第1回。市制60周年記念に第61回芸術祭を開催できることに会員、関係者の皆さんに感謝したい」と述べ、子どもや若者も参加する新しいジャンルの催しにも取り組

んでいる
ことを強
調した。

式では、22年のねんりんピックかながわ美術展で写真部門金賞受賞の古閑マス子さん、同工芸部門銅賞受賞の中友徳一郎さん、同年の日本国際バレエフェスティバルクラシックバレエソロ高校生男子の部第1位の山形大地さんの3人が芸術祭表彰を受けた。

開会式のオープニングは能楽連盟子どもたちの素謡「鶴亀」、エンディングは小倉少年少女合唱団の「市歌」「花」「銀河鉄道999」と、若々しい演出だった。

今回の参加団体は全部で34団体。美術系10団体は、4月4日から6日間、北九州市立美術館で洋画、彫刻部門を開いたのを皮切りに、5月21日まで総合美術展を繰り広げる。



開会式に花を添える子供素謡「鶴亀」

ふるさと文化誌

『ぶぜん天狗の里物語』 発行

修験道の霊場求菩提山に焦点
大河内伝次郎ら多彩に輩出

県文連刊行の「ふるさと文化誌」シリーズ第11弾『ぶぜん天狗の里物語』が、発行された。

国指定史跡求菩提山は、かつて修験者が天狗さながらに飛び交った山岳霊場で、豊前市のシンボル。求菩提山を多様な視点

でとらえたほか、宇都宮氏、小笠原氏の支配から、幕末・維新时期を経て、高度成長期の周防灘開発、豊前市誕生から今日の姿まで、豊前の歴史、文化風土を概観している。

さらに幕末、私塾「蔵春園」で若者教育に生涯をささげた恒遠醒窓、昭和初期、一世を風靡

した時代劇の大スター大河内伝次郎、『丘を越えて』の作詞者島田芳文、女性パイロットの草分け木部シゲノら豊前が輩出した人士にも焦点を当てている。

『ぶぜん天狗の里物語』は定価500円。問い合わせ、申し込みは県文連事務局092（643）2875へ。

ふるさと文化誌

ぶぜん天狗の里物語



吉塚だより

西中洲の旧・県公会堂貴賓館がかつて、県教育庁だったことを知る人はもう少ない。高校長着任拒否闘争など県教育界が波乱の時期、教育行政の司令塔だった。

県文連の初代専務理事兼事務局長だった二村能史さんとは、ここで知り合った。入社5年目、まだ駆け出しの私が教育庁記者クラブ詰めになったとき、広報係長で縁が深かったのが二村さんである。

二村さんの方が3、4歳年上だったが、ともに30代。いつも温厚。クラブ仲間たちもその人柄に魅かれ、親しんだ。私とはその後、何かと縁は続き、年賀状のお付き合いは終生欠かさなかった。

2005年6月、東京勤務を終えて福岡文化連盟事務局長に就任したという私の挨拶状に、「二村さんから頂いたハガキがある。」

「何とか県民文化祭を軌道に乗せ、

初代事務局長、 二村能史さんのこと

県民文化大学などの立ち上げにも奮闘したなど、県立美術館副館長を終えて創立半年後の1993年5月に県文連事務局長に就任。苦闘4年半の草創期を振り返って「古賀さん、県文連のために一肌脱いで」とある。充て職で私も専務理事になるからである。

そのころ、二村係長時代の記者クラブOB有志7、8人で、やれ花見だ、暑氣払いだ、忘新年会だ、と、年に3、4回、飲み会をやっていた。とかく記者放談の場だったが、二村さんはよく付きあってくれ、私も下戸ながら「二村会」は皆勤賞もなかった。2010年9月、二村さんの死で終わった。

私は、広報編集委員、県民文化大実行委員長など担当の調査役をざっと17年。創立30周年記念式典で「文化貢献特別大賞」を頂いた。二村さんも「よくやった」と言ってくれるだろうか。

(古賀)

福岡県文化団体連合会

平成4年(1992)11月、県内で活動する地域別の文化団体67、分野別20の計87団体が参加して結成。16年秋には、県と協力して第19回国民文化祭ふくおか2004(愛称「とびうめ国文祭」)を推進、大成功を収めた。創立以来、毎年、県民文化祭を開催するほか、県民文化大学講座など独自の文化企画を展開している。現在は地域別63団体、分野別26団体、特別個人会員47名が加盟。末端会員は推定20万人。

県文連ふくおか 72号

発行 令和5年5月

福岡県文化団体連合会

専務理事 江崎 雅彦

広報編集委員 古賀 透

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50

TEL 092 (643) 2875

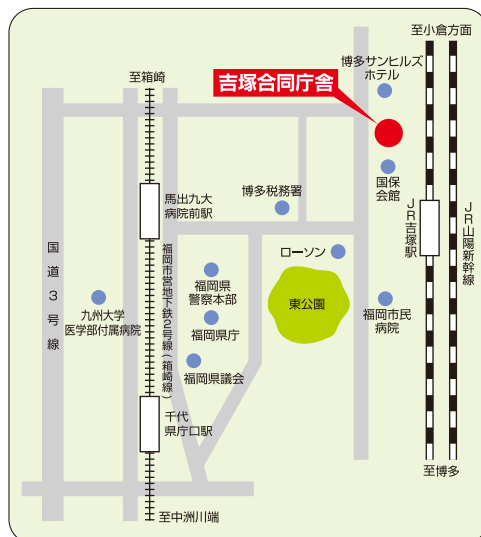
FAX 092 (643) 2876

印刷 協文社印刷株式会社

〒819-0001 福岡市西区小戸4丁目24-5

TEL 092 (891) 0411(代)

FAX 092 (891) 7288





ふくおかの文化をはつらつと

福岡県文化団体連合会

Fukuoka Prefecture Cultural Group Federation



ホームページは「県文連」で検索

県文連



賛助会員のご紹介

企業 団体会員

(公財)アクロス福岡
アジア美術家連盟 日本委員会
飯塚信用金庫
一番食品(株)
英進館(株)
(株)エルテックス・ヨシダ
(有)海鳥社
九州電力(株)
(公財)九州交響楽団
(株)九電工
久留米運送(株)
(公財)末永文化振興財団
西部ガスホールディングス(株)
(株)如水庵
人生史サークル黄櫨の会
(株)西日本シティ銀行
西日本鉄道(株)
西日本プラント工業(株)

日本経済大学

(公財)日本習字教育財団福岡事務所
(株)日本旅行九州法人営業部
(株)ひよ子
(株)ピアノターミナル・ナカムラ
福岡県教育庁部課長会
福岡県教育庁参事・補佐会
(株)福岡銀行
福岡県信用保証協会
ふくおかアジア文化塾
(株)福岡こどもクラブ
(NPO)文化ボランティア
とびうめの会
(株)山口油屋福太郎
(50音順)

個人会員

唐川 茂樹
岡 征二
王寺陽一郎

賛助会員の募集

福岡県文化団体連合会では、福岡県の文化振興並びに文化活動を側面から支援していただく企業及び個人の賛助会員（企業・団体1口：1万円、個人1口：5千円）を募集しています。この機会に、賛助会員として加入していただき、新たな県民文化創造へ継続的にご支援、ご参加くださいますようお願いいたします。

賛助会員に
対する特典

- 1 会報「県文連ふくおか」の送付(年2回)
- 2 会報とホームページへの賛助会員の掲載と紹介
- 3 その他、県文連主催行事、関係情報の提供

〈加入方法〉

福岡県文化団体連合会事務局

TEL.092-643-2875に連絡ください。

追って手続き書類をお送りしますのでよろしく願います。